

「権利擁護支援フォーラム in おきなわ」事業報告



全国権利擁護支援ネットワーク主催の地域フォーラムの先頭を切って南国沖縄で2011（平成23）年11月2日（水）沖縄市民会館で開催されました。

時折強い雨の降る中、沖縄各地から260名の参加者がありこのテーマの関心の高さを改めて認識しました。予想以上に当日参加者が多く、パンフレットが足りなくなりそうな勢いでしたので、待っていただいたりしてご迷惑をおかけする場面もありました。

現地事務局を担当していただいた沖縄市社協の皆様には100ページ近い厚みのあるパンフレットの印刷はじめ、広報、当日の運営に大変なご尽力をいただき深く感謝申し上げます。

当日のプログラム、基調講演は「地域における権利擁護支援の意義と役割」と題して細井洋海さん（芦屋市保健福祉部地域福祉課（トータルサポート担当課長））が芦屋市の取り組みを熱心に話され「こんなに情熱的な行政の方がいることにびっくりしました」と後からアンケートに書かれた方がありました。

休憩をはさんで鼎談：「権利擁護支援としての成年後見を考える」と題して 照屋 隆さん（沖縄市健康福祉部長）竹内俊一さん（岡山高齢者・障害者支援ネットワーク）田辺 寿さん（三重県伊賀市社会福祉協議会）がそれぞれの地域の状況を語られました。難しいテーマですが、先進地域に学ぼうという会場の熱意が伝わりました。

最後はパネルディスカッションで「沖縄県における権利擁護支援の展開を考える」というテーマで地元沖縄で活動されている多和田真弓さん（うるま市地域包括支援センター） 溝口哲哉さん（おきなわ障がい者相談支援ネットワーク）大山望さん（沖縄市社会福祉協議会）のお三方が登壇されました。島村聡さん（沖縄県社会福祉士会顧問、おきなわふくしオブズマン）うちなーぐち（沖縄方言）を混ぜての絶妙なコーディネートで会場に大きな笑いが起こっていました。肩の力を抜いて権利擁護を語ったり学んだりできるのは素晴らしいなあと南国沖縄らしいラテンの雰囲気を楽しみました。

閉会の挨拶は沖縄市社会福祉協議会会長の嘉陽宗吉さんが穏やかな温かい口調でお話しされました。静かなたたずまいでフォーラムを見守ってくださっているお姿が印象的でした。課題は多くありますが、「なんくるないさ」（自然に・何とかなる）の静かなパワーを感じさせるフォーラムでした。会場の写真と翌日地元沖縄タイムスに掲載された記事をご覧ください。

（全国権利擁護支援ネットワーク事務局 NPO 法人 PAS ネット：上田美智子）



後見制度の先進例報告

〈汗縄タムス〉活用拡大でフォーラム

【沖縄】全国権利擁護支援ネットワークは2日、沖縄市民会館で「権利擁護支



権利擁護支援の事例報告を聞くフォーラム参加者ら。沖縄市民会館

援フォーラムいりおきなわーを開いた。沖縄では初開催で、成年後見制度などに携わる行政、司法、福祉団体の関係者らが、高齢者や障がい者ら社会的弱者の権利を守る取り組みを報告した。県内の保健師や弁護士、社会福祉士、行政・司法・医療関係者ら約260人が参加した。

同ネットワークは、各地の社会福祉協議会や特定非営利活動法人(NPO法人)が2009年、成年後見制度の活用例などを学び合い、広げていこうと結成した。今年4月に沖縄市社協が県内から初加入したのを契機に沖縄でフォーラムが開かれた。

兵庫県の芦屋市保健福祉

部の細井洋海(ひろみ)ト担当課長は、権利擁護支援に関する市民アンケートの結果を基に、「制度の

はさまにある事案には、中途半端な状況でどの機関も対応できていなかった」と報告。行政だけでなく関係団体を巻き込んだセンターを新設し、支援が拡大した実績を説明した。

同ネットワーク副代表の竹内俊一弁護士は地元岡山県の「権利擁護ネットワー

ク懇談会」を紹介。高齢者や障がい者の成年後見者として、弁護士や税理士が財産を管理、社会福祉士らが心のケアをするチームをつくっている状況を語った。

三重県伊賀市社協の田辺寿氏は市民を成年後見人候補者として育成している取り組みを紹介した。